

旅と冒険、心躍るスペクタクル—— この秋、世界も注目の舞台が東京にやってくる!



『マハーバーラタ』って? 神と人が紡ぎ出す大叙事詩

全18巻から成る古代インドの大叙事詩。神話・教説・哲学が織り込まれ、インドのみならずアジア全域の文化に深い影響を与えました。主題は有力部族として勢力を伸ばした「バラタ族」の領土をめぐる親族間戦争。伝承・説話などを加えながら、長い時を経て現在の形になったといわれています。現代演劇ではピーター・ブルック演出(1985年アヴィニョンのブルボン石切場にて初演)の舞台が世界的に知られており、同作は1988年に銀座セゾン劇場でも上演。9時間を超える上演時間とともに話題に。SPAC版では、『マハーバーラタ』第3巻に収められ、全編中もっとも美しいロマンスといわれる「ナラ王物語」が祝祭音楽劇として上演されます。



©Osami Hioki

美しくダイナミック、心温まるロマンス。幸せ気分の祝祭劇!

SPAC- 静岡県舞台芸術センター 『マハーバーラタ ~ナラ王の冒険~』

ここは見逃せない!

注目“3”ポイント!



©Masami Hioki

1 今回だけの特別なロケーション!

自然あふれる野外劇場、都会の公園など、これまであらゆる場所に出現してきた『マハーバーラタ』を、この公演限定のスペシャルな場所で上演。詳しい情報は後日、乞うご期待!



2 世界も絶賛の舞台!

2014年、規模においても知名度においても世界的に重要な演劇祭であるフランスの「アヴィニョン演劇祭」の公式プログラムに選ばれた今作。世界に絶賛された舞台を体験する貴重な機会。

3 幸福感に満たされるラストシーン

タマヤンティ姫とナラ王が数々の困難を乗り越え、やっと再会する胸を打つハッピーエンド。立ち会うもの全てが祝福されるような、神と人間が繰り広げる祝祭音楽劇に、最後は誰もがニコッ!



©Y.Inokuma

SPAC- 静岡県舞台芸術センター 『マハーバーラタ ~ナラ王の冒険~』

演出：宮城 聡
台本：久保田梓美
音楽：棚川寛子
空間構成：木津潤平
出演：SPAC- 静岡県舞台芸術センター
日程・会場など詳細は後日発表

演劇ライター・川添史子が伝えない
今作のここがすごい!
目も耳も研ぎ澄まされる
幻想的な劇的空間を体験

古代インドから伝わる国民的叙事詩『マハーバーラタ』に描かれる、美しくダイナミックな物語を、絵巻物のような視覚効果、祝祭的な音楽劇に昇華させた幻想的な舞台。同作は2014年、世界最高峰の演劇の祭典「アヴィニョン演劇祭」において約1000席の会場を連日満席にし、スタンディング・オベーションを巻き起こした、世界も認める作品です。演出を手がけたのは、国内外で活躍する演出家・宮城聡(東京芸術祭総合ディレクター/SPAC・静岡県舞台芸術センター芸術監督)。「マハーバーラタ」におけるアヴィニョンでの成功を受け、2017年、同演劇祭のオープニング作品としてギリシャ悲劇『アンティゴネ』を上演。アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは史上初めての快挙です。

物語の主軸は、美しくで神々も虜にするタマヤンティ姫。彼女が夫に選んだのは、人間の子ナラ王でした。結婚を始んだ魔神カリの呪いによって、ナラ王は弟との賭博に負け、国を手放すことに。落ちぶれた夫に連れ添うタマヤンティ。疲れて眠っている間に、彼女の衣の切れ端を持ってナラ王は去って行きます。夫を捜して森をさまようタマヤンティをあらゆる困難が襲い……。

白を基調とした平安貴族風の美しい衣裳、神々をあらゆる仮面、生き生きと操られるチャーム的な紙の動物たち。俳優による空間を支配する語りは朗々と響き、生演奏によるパーカッションのリズムとグループは観る者の胸を高鳴らせます。「東京芸術祭2023」だけの特別なロケーションで、進化し続ける傑作を目撃しましょう。

非日常の時間、観たことのない風景、価値観が変わるドキドキの瞬間……観劇とは気ままな一人旅みたいなもの。これまで生きてきた世界を反転させてくれるような、忘れられない体験がそこにはあります。「東京芸術祭 2023」で舞台の主人公と壮大な旅に出発すれば、東京にしながら想像力は“ずっと遠く”へ。

伝説の劇団22年ぶりの来日作品は、愛する日本文化へのオマージュ

芸劇オータムセレクション

太陽劇団 (テアトル・デュ・ソレイユ)

『金夢島 L'ÎLE D'OR Kanemu-Jima』



太陽劇団って? 唯一無二の革命的集団

1964年、演出家アリアヌ・ムヌーシュキンを中心にフランスで旗揚げされ、多国籍、多民族のメンバーが集う世界屈指のユニークな演劇集団。本拠地はパリ郊外ヴァンセンヌの森の中。カルトゥージュリ(弾薬庫跡)を改装し、劇場、アトリエ、食堂、住居まで備えた、いわば舞台芸術の理想郷。公演中はムヌーシュキンら劇団員たちが観客をもてなし、さらに楽屋など舞台の裏も表も見せ……と、演じる側と観る側の間には“壁”が存在せず、また劇団内においてもスタッフと俳優の垣根をなくした平等精神に基づく集団創作でも知られています。創造的な作品を生み出す唯一無二の集団として世界中の演劇に影響を与え続ける、革命的劇団!



Michèle Laurent



Michèle Laurent

ここは見逃せない!

注目“3”ポイント!



演劇ライター・川添史子が伝えない“今作のここがすごい!” 日本文化へのオマージュ 舞台を覆い尽くす演劇への愛

アリアヌ・ムヌーシュキンは劇団を旗揚げする前夜、若き日に日本を旅行し、その時の体験が演劇人生に大きな影響を及ぼしたと回想しています。そんな影響もあり、太陽劇団はヨーロッパの演劇様式のみならず、早くから東洋の伝統文化や民俗芸能に深い関心を示し、これまでさまざまな作品に取り入れてきました。

「日本から私生活や芸術において多くの恩恵を受けました」と語るムヌーシュキンが、愛してやまない日本文化へのオマージュを込めた『金夢島 L'ÎLE D'OR Kanemu-Jima』は、能、歌舞伎、大衆演劇など日本の芸能への憧憬とエッセンスがこれでもか!と詰め込まれた遊び心あふれる作品。病床に伏す年配の女性コーネリアは夢の中で、日本と思しき架空の島「金夢島」に滞在しています。策謀と権力闘争、国際演劇祭を巡る虚々実々……夢うつつにあるコーネリアの幻想の島では、己の欲のために暗躍する人々が入り乱れ、事態はあらぬ方向へ。愛と悲しみの人間模様、あらゆる演劇手法を駆使しながら、豊かなビジュアルイメージ、時にユーモアも絡めながら浮かび……。

当初2021年に予定されていた来日公演は、コロナ禍で延期を余儀なくされました。そんな困難を乗り越え、同年秋、本拠地カルトゥージュリで無事に初日を迎え、この度待望の日本上陸を迎えます。演劇ファンはもちろん、観劇初心者にも大いなる事件になること間違いなし。どうぞこの素晴らしい機会をお見逃しなすきょう。

1 伝説の劇団、22年ぶりの来日

前回の来日公演は、文楽の技法を取り入れ、俳優が黒衣に操られながら“人形”を演じた驚異的作品『堤防の上の鼓手』(2001年、新宿立劇場)。22年ぶりに貴重な公演がやってくる!

2 日本での旅が構想の原点

2017年、久しぶりに日本を訪れたアリアヌ・ムヌーシュキンは、かつて世阿弥が流された佐渡島などを旅する中でこの最新作を構想。世紀の芸術家の目を通した“日本と思しき架空の島”の物語。

3 革命的、挑戦的な集団の最新作

世界各地で現代社会の諸相を綿密にリサーチ、長い時間をかけたクリエイションを通し、常に挑戦的な主題と演劇表現を貫いてきた太陽劇団。現代演劇の伝説であり、トップランナーの最新作!

太陽劇団 (テアトル・デュ・ソレイユ) 『金夢島 L'ÎLE D'OR Kanemu-Jima』

10/20(金)~26(木) ※23日(月)休演
東京芸術劇場 プレイハウス
東京都豊島区西池袋1-8-1

作・出演：太陽劇団 (テアトル・デュ・ソレイユ)
演出：アリアヌ・ムヌーシュキン (2019年京都賞受賞)
制作アシエイト：エレヌー・シクスー
音楽：ジャンニジャック・ルメートル
料金(全席指定・税込)：S席9,800円ほか



~この秋は、池袋を陽気に楽しもう~

IKEBUKURO CULTURE MAP



「東京芸術祭 2023」では、池袋の“まちなか”を舞台に繰り広げられるプログラムも!

それとあわせてぜひ楽しみたいのが、池袋のカルチャースポット巡り。

本、音楽、映画、食、アート...まだ知らない「興味の種」が見つかるかも!

この秋は陽気に池袋を歩いて、いろんなカルチャーに触れてみよう!



A プログラム紹介

くらし発、演劇あそびでもっとつながろう! くらしチャレンジクラブ

ディレクション:阿部健一

豊島区の誰かのくらしをもとに書かれた短編戯曲集をつかって、大人から子どもまでが日々の生活のなかで小さな演劇を想像したり、見つけたり、実際にやってみたりして楽しむプロジェクト『くらしチャレンジ』。好評だった昨年を経て、今回は戯曲集の配布に加え、参加者それぞれがくらしから戯曲を書いてみる「クラブ」を各地で開催。一人ひとりの物語が重なっていく戯曲体験を通して、まちのくらしを再発見しよう!

- 9/2 (土) ●IKEBUKURO LIVING LOOP
- 9/24 (日) ●豊島区立雑司が谷公園
- 10月中旬 ●東京芸術祭ひろば(東京芸術劇場 アトリイースト)
- 10月下旬 ●会場未定

●参加費:無料 予約不要(予定)
※戯曲集配布スポットや関連イベントは「東京芸術祭 2023」特設サイトで

3 国内外のブック&アートカルチャーを満喫 ブックギャラリーポポタム



国内外のブック&アートカルチャーを満喫 ブックギャラリーポポタム

池袋駅西口から徒歩10分ほど、池袋と目白の間の住宅街にあるブックギャラリー。日本のみならず韓国や台湾を中心に、さまざまな国のアートブックやトルプレス、絵画作品、アーティストグッズを取り揃える。店内奥のギャラリースペースでは、原画の展示やトークイベントを開催。この秋は、池袋にしながら世界各国のブック&アートカルチャーの旅に出かけてみよう!

●東京都豊島区西池袋2-15-17 ☎03-5952-0114
◎月・金 15:00~20:00 土・日・祝 14:00~19:00 火・水・木休

店長おすすめ・ぜひ読んでほしい2冊

- 1『ぼくがふえをふいたら』:画家・阿部海太が描く、音楽のうまれる神秘的な瞬間。心地よい余韻がのこる絵本。10月には原画展をポポタムで開催予定。
- 2『砂糖と葡萄柚』:台湾出身のイラストレーター・高妍(Gao Yan)の作品集。みずみずしく描かれる果物や植物、人物の描写にひきつけられる。

『ぼくがふえをふいたら』阿部海太/岩波書店(1,870円)
『砂糖と葡萄柚』高妍/ポポタム(2,420円)

B

耳を澄ませて音や地形を体感する
吹き抜け空間コンサート!

とおくのアンサンブル

コンセプト・演出・作曲:とくさしげんご

人の営みの環境の中で音楽を捉えようとする作曲家ととくさしげんごによる、吹き抜け空間で体感するコンサート。東京芸術劇場やまちなかの吹き抜け空間に、金管楽器群の生音が静かに共鳴。互いに離れた場所に位置する奏者同士のアンサンブルに、とおくから耳を澄ませてみると、そこには心地よさと覚醒が共存した音体験が!

- 10/7 (土)
- メトロポリタンプラザビル自由通路
●東京都豊島区西池袋1-11-1 (JR池袋駅直結)

- 10/14 (土)
- 東京芸術劇場アトリウム
●東京都豊島区西池袋1-8-1
- 参加費:無料・予約不要(予定)
- ※開演時間などプログラムの詳細は「東京芸術祭 2023」特設サイトで



会場となる東京芸術劇場 アトリウム(左)、メトロポリタンプラザビル自由通路(右)



作曲家のポートレート Photo: Ikedo Masanori



4



カラフルなミュージックカルチャーに触れる ココナッツディスク池袋店

都内で3店舗展開するレコードショップ「ココナッツディスク」の池袋店。レトロでポップな店内には中古レコード・CDを中心にオールジャンルの音楽作品が所狭しと並び、また中川晃宏店長がオススメする日本のインディーシーンの作品も豊富。特にお目当ての音楽作品がなくても、ぜひ訪れてみて。あなたが知らない「新しい音楽」との出会いがきっとあるはず。

●東京都豊島区西池袋3-22-7 ☎03-3985-0463
◎12:00~21:00 年中無休



店長おすすめ・この秋に聴きたい2枚

- 1『ほうろう』:シンガー&ソングライター・小坂 忠が1975年に発表した、ジャズ系R&Bの原点とも言われる名盤のレコード。特に『つるべ茶』は秋にぴったり、シティポップ好きにも聴いてほしい一枚。
- 2『新たな解』:猪爪東風のソロ・プロジェクト「ayU tokiO」の1stフルアルバム。種々のメロディ&ハーモニーに彩られた珠玉のポップミュージックが心を落ち着かせてくれる。

『ほうろう』小坂 忠/Sony Music Labels(4,070円)
『新たな解』ayU tokiO/COMPLEX(3,500円)

5



シネマカルチャーの歴史を体感 シネマ・ロサ

戦後も少なくから池袋の歴史を見守ってきた老舗の映画館。大手シネコンが複数あるこのエリアにおいて、メジャー・インディーズを問わず独自のプログラムを組み、古き良き映画文化に出会える数少ないスポット。上映機会に恵まれず若手監督の作品も積極的にプッシュし、ここから活躍の場を広げた監督も数多い。次世代の映画界を担う作り手の作品にいち早く出会えるかも?

●東京都豊島区西池袋1-37-12 ロサ会館内 ☎03-3986-3713
◎不定(上映作品による)

C



居間 theaterのメンバー

とくさしげんごの 秋の池袋を陽気にさまよう音楽10選

- 2814 /一緒に私たちは、市内の遺跡を歩く
- ダリウス・ミヨー /2台のピアノのための協奏曲 第1番 Op.228から 第1楽章
- DJ Synthesizer /Empty Sunday
- アルテュール・オネゲル /室内協奏曲から 第1楽章
- ザ・ビーチ・ボーイズ /Passing By
- ボアスラフ・マルティヌー /バルティータ「組曲第1番」 H.212から 第1楽章
- アリス・バプス /No Words Blues
- ジョハニ・ガブリエリ /エコーによる12声部のためのカンツォン (E.クリース編曲)
- アントニオ・カルロス・ジョビン /Dialogo
- 仮想夢プラザ /あなたを待って

池袋の雑踏、人混みの中にいながら匿名性の心地よさ。90年代から比べると池袋の雰囲気もずいぶん変わりましたが、かつてあった匿名性や抽象性は、コクのあまる街の味わいとなって残っているように感じます。匿名性や抽象性にコクが出るなんて! 秋の抽象的な雑踏を陽気にさまよう音楽を10曲、どうぞ。

とくさしげんご
作曲家。1980年青森生まれ。『MUSIC FOR SAUNA』シリーズ、ドラマ『サ道』劇伴、その他、TV、CM、ゲーム、映画、展示などのための音楽多数。『とこのうらラジック』などクラシック音楽のコンピレーションの監修もつとめる。



音楽ストリーミングサービス「Spotify」で10曲をプレイリストにしました。
「Spotify」アプリで「Spotifyコード」をスキャン! 詳しい聴き方▶

のぼって ひろげて 望んでみよう、展望室! パフォーマンス展望室

構成・演出:居間 theater

池袋西口のまちを55年に渡り見守ってきたロサ会館の屋上に、既存の“場”とそこにある“ふるまい”をもとに作品を制作する居間 theaterの体験型作品が登場。さまざまな目的で人々が滞在し行き交い、再開発に向かう池袋のまちを片目に眺めながら、人や社会の“展望”を探るスポット。ふしぎな展望室に立ち寄ってみよう!▶

- 10/21 (土) ~ 29 (日) ●23日(月)は休演(予定)
- ロサ会館 R階(屋上)
- 東京都豊島区西池袋1-37-12 ロサ会館
- 参加費:無料・予約不要(一部、要予約・有料あり)
- ※オープン時間などプログラムの詳細は「東京芸術祭2023」特設サイトで

1



ヒガンバナ (770円)
※ノンアルコールカクテル



上=蒸し鶏の香油麺 (1,000円)
下=豚角煮のBAO (858円)

池袋の新たなカルチャー発信拠点 P-144

今年3月にオープンした人とカルチャーが交わる複合施設。1・2Fのパブでは豊富なドリンクのほか、蒸し鶏をトッピングした麺に魚醤の味が絶妙に絡まる「蒸し鶏の香油麺」やふわふわの生地に大きな角煮を挟んだ「豚角煮のBAO」など、池袋の多様なカルチャーをイメージしたユニークな料理が味わえる。3Fはイベントスペース、地下はプライベートルームと幅広い用途や楽しみ方が。

●東京都豊島区東池袋1-4-4 ☎090-3131-0144
◎11:30~23:00 不定休

2



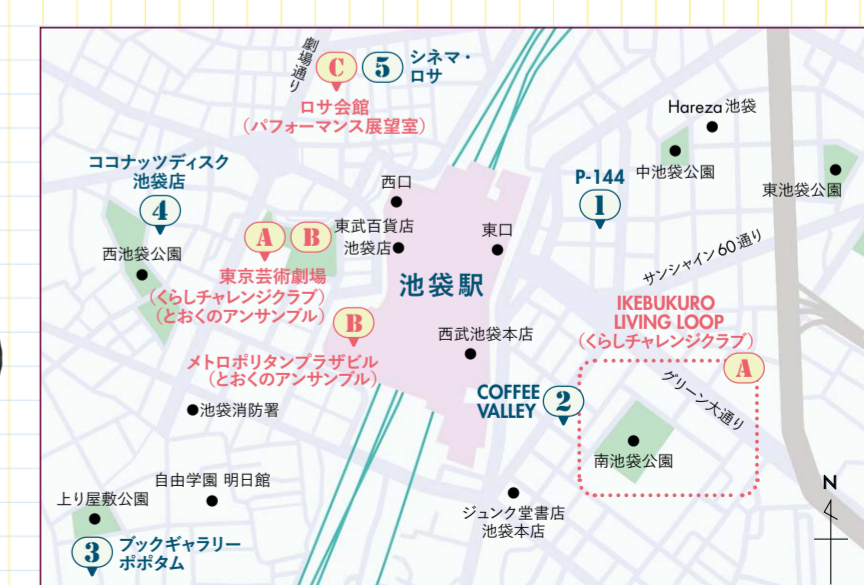
上=カフェラテベースセット (1,500円)
左=「3PEAKS」(680円)

コーヒーカルチャーの“奥深さ”を知る COFFEE VALLEY

南池袋にあるスペシャルティコーヒー専門店。ぜひ味わいたいの、同じコーヒー豆をエスプレッソ、エスプレッソマキアート、ドリップコーヒーと3種類の淹れ方で飲み比べできる「3PEAKS」。コーヒーの奥深さに引き込まれるはずだ。また店内にはドリップバッグセットやカフェラテベースなどギフトも豊富。都会の喧騒に疲れたら、落ち着いた雰囲気この店でホッと一息入れたい。

●東京都豊島区南池袋2-26-3 ☎03-6907-1173
◎平日 8:00~20:00 土・日・祝 9:00~20:00

IKEBUKURO MAP



※豊島区立雑司が谷公園「くらしチャレンジクラブ」(奥)はマップ外(東京メトロ副都心線 雑司が谷駅より徒歩5分/都電荒川線 雑司が谷駅前停留所より徒歩5分)

東京芸術祭 2023 特設サイトにて
インタビュー
全文掲載



—歌舞伎作品を現代のアーティストと更新する木ノ下歌舞伎主宰の木ノ下さん、古今東西のポップカルチャーをサンプリングするロロ主宰の三浦さん、「東京芸術祭2023」に参加するお二人が、お互いに感じる共通点などはありますか？

木ノ下 僕なら歌舞伎、三浦さんなら本や漫画や音楽といったカルチャーと、お互いに好きなものをガソリンにしながら創作している、作品について傾向はありますね。

三浦 確かに。でも僕は木ノ下さんほど「深く潜っていく」とはなくて、どちらかというと手当たり次第に「広げていく」とタイプかも、小説や漫画に感動して「これをやってみよう」と感じるのが初期衝動になることが多いんです。

木ノ下 三浦さんは、好きな作品に対して「自分ならこうやるの」といった、ある種の批評精神や不満から創作意欲がわいてくること、ありますか？



「演劇の魅力」って
なんですか？

左=三浦直之 右=木ノ下裕一

—今回三浦さんが書き下ろす新作『オムニバス・ストーリーズ・プロジェクト(カタログ版)』は、50名以上の登場人物が織りなす無数の物語になると伺いました。

三浦 構想イメージの一つには江國香織さんの『去年の雪』

—今回三浦さんが書き下ろす新作『オムニバス・ストーリーズ・プロジェクト(カタログ版)』は、50名以上の登場人物が織りなす無数の物語になると伺いました。

—「オムニバス・ストーリーズ・プロジェクト」は、50名以上の登場人物が織りなす無数の物語になると伺いました。

—親しんでいたカルチャーと地続きで楽しめたんですね。

三浦 そうなんです。だけど地元友達としゃべっていると、マニアックな作家や作品の固有な言葉が飛び交うのに、演劇の話は一切出てこない。僕がいつも意識するのは、その仲間たちに向けて作る感覚で、「どうしたら彼らが演劇に出会ってくれるかな」「ちゃんと彼らが演劇に感動するような瞬間が生み出せているかな」という客観的な視点があるんです。

—初心者へ向けて、お二人の思う演劇の魅力を教えてください。

三浦 僕は宮城出身で、大学に入るまでほとんど演劇を観た経験がなかったんです。たまたま演劇を学ぶ大学に入ってしまっただけで(笑)。でも同級生は演劇をやりたい奴らばかりじゃないですか。「これだと友達が一人もできないんじゃないか」と慌てて演劇雑誌のバックナンバーを読みまくって、紹介されている小劇場を片っ端から観にいってました。そうしたら、すぐ面白かった。10代から親しんできた小説や漫画や映画と同じく、初心者へ向けて、お二人の思う演劇の魅力を教えてください。

—木ノ下さん、新しい観客に作品が届いた時に、どういうことが起こってほしいと期待していますか？

三浦 自分自身が、いろんなものが混ざり合ったり、超えて結ばれていく……みたいなことが好きなんです。だから、そうした効果が「観客の中で起こるといいな」とは考えています。自分の星座を作っていく楽しさとか、そういうこと全部込みで舞台芸術の醍醐味だと思うから。そのきっかけを生み出す手助けをしているような気持ちなんです。

—例えば「これは今まで読んだことがない小説だ！」と思う作品に出会うと、「関連したジャンルも読んでみたいな」とか「南米文学というのがあるのか！」なんて(笑)、好奇心がどんどん広がっていくじゃないですか。演劇のお客さんにも、その広がっていく楽しさを味わってほしいんです。

木ノ下 すくすくステキな考えですね。僕は古典を届けることが、誰かを生かすするためのお手伝いになると思っています。まず古典には「共感できる」「面白さがあるじゃないですか。例えば「竹取物語」でかぐや姫を抱える「なぜ結婚しなくてはいけないのか」といった悩みは、現代でも多くの人が直面する問いですね。時空を超えて同じ悩みを持つ人物がいることに、勇気つけられる方もいるでしょう。と同時に、時代も人生観も死生観も何もかも違う古典の世界に触れ、「なるほど、そういうふうに物事を捉えることも可能なのか」と発見する、「未知と出会う」「面白さもあります。これは、今いる世界に窮屈さを感じる方にとっては新しい視点になり得る。ある種の救いになる可能性も秘めています。この「共感」と「未知」が、人間を生かすしてくれる。「お薬」のような効果をもたらすと思います。

プログラム詳細は左ページへ

世界が反転するかも!?

あなたの好奇心を刺激するプログラム!

東京芸術祭×愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohama
パフォーミングアーツ・セレクション 2023 in Tokyo



Photo by Naoshi HATORI

時代の空気を掬い取り、
身体をメディアとして社会へと問いかける

世界的に注目を集める振付家シャロン・エイヤールのもとで活動した神崎麻莉子がアリス・ゴドフリー(元NDT)と協働の「眠れない夜に救いを与えてくれるような」作品を葉 朱音と上演。またウィリアム・フォーサイスの活動等で活躍中のダンサー島地保武と音楽を軸に多彩に活動するラッパー・瑠ROYが前作「あかり」に続く新作を発表。

スタッフ「イチ押し」ポイント!
神崎麻莉子作品、島地保武・瑠ROY作品を一度に観られるのは、ダンス好き、また初心者にとっても素敵な体験。お見逃しなく!

10/21(土)・22(日)
東京芸術劇場 シアタースタート
チケット料金:一般 4,500円ほか

EPAD Re LIVE THEATER
～時を越える舞台映像の世界～



時空間を越える鑑賞体験—
舞台映像の世界!

舞台に関わるあらゆる資料の収集・デジタルアーカイブ化やそれらの利活用のサポートを行い、舞台芸術を映像といたがたで未来に繋げ、残していくことを目指すEPADが、最高水準の技術で収録された舞台映像の「上映」の可能性を探る連続上映会を開催。かつて上演された舞台の傑作がここに集結。未来へと向かう時間体験をぜひ。

スタッフ「イチ押し」ポイント!
最新技術を駆使してEPADが残してきた舞台映像がここに集結します。新しい鑑賞体験をお楽しみください!

10/11(水)～22(日)
東京芸術劇場 シアタースタート
チケット料金:一般 1,500円ほか

『マライの虎』(テアター・エカマトラ / 2018)
を巡るトーク



Photo: Monospectrum Photography

昔の映画のアップデートが意味するもの—
演劇によるリメイクが拓く通路

戦時中のプロパガンダ映画をシンガポールと日本の俳優が舞台上で演じていくことで、歴史の改編の問題や演じる役と俳優との属性の一致に関する議論など、いま映画や演劇の作り手が選んで通れないトピックを鋭くしかしユーモアをもって問いかける『マライの虎』。その舞台映像の事前上映と、アーティストやプロデューサーを交えたトークセッション。

スタッフ「イチ押し」ポイント!
シンガポールと日本の関係を知られば知るほど深く理解したくなる作品。「もっと知りたい!」を専門家が語りつくします。

10/21(土)・27(金)
東京芸術劇場 シンフォニクススペース
無料(要予約・事前オンライン上映あり)

アトカル・マジカル学園
アートサポート児童館



Photo by Takashi Fujikawa

子育て中の今がアートを楽しむチャンス!
託児所+アート=「アートサポート児童館」

大人がアート鑑賞を楽しむ間、子どもたちも遊びながらアート体験。「預ける」親の後ろめたさと、「預けられる」子どもの不安を解消し、「また行きたい」と思わせるアート体験型託児プログラム。東京芸術祭 2023のプログラム観劇のほか、映画・音楽・美術鑑賞にも利用可能。

スタッフ「イチ押し」ポイント!
はじめは不安そうなお顔の子どもたちもお遊べる時間になると「帰りたいくない!」と懇願するシーンが毎年の風物詩です。

10/13(金)～20(金)
東京芸術劇場 アトリエウエスト
料金:500円(2h)延長可

アトカル・マジカル学園
かぞくアートクラブ



Photo by 山本隆

家族、ときどき同級生。
多世代で笑い、学び合うアート体験!

親子も同じチームメイトになって授業を受ける、とっておきの参加型イベント。東京芸術劇場のアトリエを部屋に变身させ、さまざまな分野で活躍する芸術家が先生となり、体や手を動かしたり話し合ったりする共同作業や対話中心のクラブ活動を実施。家族と一緒に笑い、学び、お互いの新しい発見をしよう!

スタッフ「イチ押し」ポイント!
単発参加も全回参加も大歓迎!「毎月やってほしい!」との声を多くいただくほど毎年好評!大人の本気な姿も胸熱!!

10/14(土)・15(日)・21(土)・22(日)
東京芸術劇場 アトリエウエスト
料金:1家族・1コマ 500円

Asian Performing Arts Camp
In-Tokyo Sharing Session



APAF2019 Lab. 最終プレゼンテーション (A NEW ASIA) Photo by Kazuyuki Matsumoto

アートキャンプを経た、アジア各地の
つくり手たちによるプレゼンテーション

次世代のアジア舞台芸術シーンを担うアーティストたちが、それぞれのテーマや問題意識を出発点にリサーチやディスカッションを通して共に思考を深め、今後の自身の活動やフィールドを精査 Asian Performing Arts Camp。参加者が期間中に取り組んだりサーチ結果の発表と、ゲストフィードバックを迎えるのフィードバックセッション。

スタッフ「イチ押し」ポイント!
東京でのリサーチを経た参加者たちがその先に見るものは? オーディエンスがフィードバックする仕組みもあります!

10/9(月・祝)
東京芸術劇場 アトリエウエスト・アトリエウエスト
無料(要予約)

ロロ
『オムニバス・ストーリーズ・プロジェクト(カタログ版)』



ロロ TBGMJ 2023 ©阿部卓仁

50名以上の登場人物が織りなす無数の物語

大学生および公共劇場での市民参加作品のために書き下ろされた群像劇の東京芸術祭バージョン。日常の一幕を何遍も積み重ねた先に浮かび上がるのは、時代や街、あるいは私たちが生きている世界そのものかもしれない。

テキスト:演出:三浦直之(ロロ)
出演:犬場みなみ、北屋 夏(Baobab)、田中美希恵、堀田新菜(ままと)、福原 京(電音遊泳)、松本 亮

スタッフ「イチ押し」ポイント!
たった6名の俳優で立ち上げる、登場人物50名以上の壮大な群像劇! 演劇ならではの表現をぜひ劇場でご堪能ください!

10/7(土)～15(日) ※11(水)休演
東京芸術劇場 シアタースタート
チケット料金:一般 4,000円、25歳以下 2,000円ほか

芸劇オータムセレクション
東京芸術劇場 Presents
木ノ下歌舞伎『勳進帳』



木ノ下歌舞伎『勳進帳』(2016) 撮影:井上真和 提供:KYOTO EXPERIMENT事務局

キノカブ×杉原邦生による名作が、初の東京公演!

フランス・パリ公演でも好評を博した、キノカブ版『勳進帳』がついに初めの東京公演! 源義経一行の関所越えを描いた忠義の物語を大胆に再構築し、既成概念を打ち破った快作をぜひその目で!

監督・補綴:木ノ下裕一 演出・美術:杉原邦生 [KUNIO]
出演:リー5世、坂口涼太郎、高山のえみ、岡野隆弘、亀島一徳、重岡 暲、大橋友哉
スワング:佐藤俊彦、大知

スタッフ「イチ押し」ポイント!
これは歌舞伎? 現代劇? 歌舞伎ファンの方も演劇をあまり観たことがない! という方も、90分、一時も目が離せない作品です。

9/1(金)～24(日) ※4(月)・11(月)・19(火)休演
東京芸術劇場 シアタースタート
チケット料金:一般 5,500円ほか



～見て、触れて、交流して～ 東京芸術祭のインフォメーション空間が登場!

芸術祭のプログラムの魅力と出会うインフォメーションスペース「東京芸術祭ひろば」が期間限定でオープン!ここでは上演作品の情報や見どころを展示形式でたっぷり紹介するほか、トークイベントやワークショップなどコンテンツが盛り沢山!

ここでしか見られない舞台写真を眺めて想像をふくらませたり、戯曲集など関連書籍を読みふけったり、ワークショップに夢中になったり。観劇前後のちょっとした休憩場所としてもびったりな、まるで“ひろば”のような場所が東京芸術劇場にあらわれます。気軽に立ち寄ってみたら、演劇と思ってもよらない出会いができるかも!?

『東京芸術祭ひろば』

10/11(水)～10/22(日)

東京芸術劇場 アトリエイスト(東京都豊島区西池袋1-8-1)

無料(一部プログラムによっては事前予約の可能性あり)

東京芸術祭 2023
開催日程

2023(令和5年) 9/1(金)～10/29(日)

掲載P	演目	会場	日程	9 SEP	10 OCT
P2	SPAC-静岡県舞台芸術センター 『マハーバーラタ ～ナラ王の冒険～』	未定	未定		
P4	直轄プログラム FTレーベル くらしチャレンジクラブ	豊島区内各所	9月～10月 ※一部プログラムを8月から実施(予定)		
P6・7	芸術オータムセレクション 東京芸術劇場 Presents 木ノ下歌舞伎『勸進帳』	東京芸術劇場 シアターイスト	9/1(金)～24(日) ※4(月)・11(月)・19(火)休演		
P5	直轄プログラム FTレーベル とおくのアンサンブル	メトロポリタンプラザビル自由通路、 東京芸術劇場 アトリウム	10/7(土)・10/14(土)		●●
P6・7	直轄プログラム FTレーベル 口ロ『オムニバス・ストーリーズ・プロジェクト(カタログ版)』	東京芸術劇場 シアターイスト	10/7(土)～15(日) ※11(水)休演		●●
P6	東京芸術祭ファーム2023 ラボ Asian Performing Arts Camp In-Tokyo Sharing Session	東京芸術劇場 アトリエイスト/ アトリエウエスト	10/9(月・祝)		●
P8	東京芸術祭ひろば	東京芸術劇場 アトリエイスト	10/11(水)～22(日)		●●
P6	EPAD Re LIVE THEATER ～時を越える舞台映像の世界～	東京芸術劇場 シアターウエスト	10/11(水)～22(日)		●●
P6	アトカル・マジカル学園 アートサポート児童館	東京芸術劇場 アトリエウエスト	10/13(金)～20(金)		●●
P6	アトカル・マジカル学園 かぞくアートクラブ	東京芸術劇場 アトリエウエスト	10/14(土)・15(日)・21(土)・22(日)		●●
P3	芸術オータムセレクション 太陽劇団(テアトル・デュ・ソレイユ)『金夢島 L'ÎLE D'OR Kanemu-Jima』	東京芸術劇場 プレイハウス	10/20(金)～26(木) ※23(月)休演		●●
P5	直轄プログラム FTレーベル パフォーマンス展望室	ロサ会館	10/21(土)～29(日) ※23(月)休演(予定)		●●
P6	直轄プログラム FTレーベル 東京芸術祭×愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohama パフォーマンスアーツ・セレクション2023 in Tokyo	東京芸術劇場 シアターイスト	10/21(土)・22(日)		●
P6	直轄プログラム FTレーベル 『マライの虎』(テアター・エカマトラ/2018)を巡るトーク	東京芸術劇場 シンフォニースペース	10/21(土)・27(金)		●●

チケット
好評発売中

東京芸術祭 2023 チケットサイト
<https://tokyo-festival.jp/2023/ticket>



東京芸術祭 2023 特設サイト
<https://tokyo-festival.jp/2023>



● Twitter : @tokyo_festival ● Facebook : tokyofestivalsince2016 ● Instagram : @tokyo_festival

※開催情報は予告なく変更になる場合があります。 ※最新情報、アクセシビリティは特設サイトをご確認ください。

開催場所

東京芸術劇場、ロサ会館、メトロポリタンプラザビル自由通路、
東京都豊島区池袋エリアほか



<< 東京芸術祭とは

東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指し、毎年秋に東京・池袋エリアを中心に開催している国際舞台芸術祭です。今年度のテーマは「世界を反転させて陽気になる方法」!

東京芸術劇場
Tokyo Metropolitan Theatre

ARTS COUNCIL TOKYO



東京都

アサヒグループジャパン株式会社

主催：東京芸術祭実行委員会(公益財団法人東京都歴史文化財団(東京芸術劇場・アーツカウンシル東京)、東京都)

協賛：アサヒグループジャパン株式会社

協力：豊島区、西武鉄道株式会社、東武鉄道株式会社、池袋西口商店街連合会、co-ba ikebukuro、NPO法人ゼファー池袋まちづくり、NPO法人テラコヤ、立教大学、合同会社ルネサンス・ジャパン

お問い合わせ：東京芸術祭実行委員会事務局 令和5年9月発行 編集・発行：東京芸術祭実行委員会事務局 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-28 九段ファーストプレイス5Fアーツカウンシル東京内 TEL:050-1746-0996(平日10時-18時)

印刷：株式会社シナパブリッシングプレス 企画・編集・執筆：船寄洋之(東京芸術祭)、川添史子(P2・3・7)、平木理平(P4・5) デザイン：藤本敦子 写真：増永彩子(P7) イラスト：木下ようすけ(表紙)、megumi yamazaki(P4・5・8)